

人権だより 31号 ふれあい



発行 令和5年3月
真備中学校区
人権学習推進委員会
事務局 倉敷市真備公民館
倉敷市真備町箭田1685
TEL 086-698-0042

ふれあいと交流のまちづくり ～人権を尊重し合う明るく住みよい地域を～



令和4年6月5日(日) 部会(研修部と啓発広報部)、役員会に続いて総会を開きました。対面での開催は3年ぶりです。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、内容をスリムにし、時間短縮を図りました。それでも書面表決とは違い、推進委員の方々と顔を合わせ、生の声を聞くことができ、充実した会となりました。令和3年度事業報告、決算報告及び令和4年度事業計画、予算等について熱心に協議し過半数の賛成をもって可決承認されました。新型コロナウイルス感染症

の第6波が落ち着いたタイミングでの開催で、今後の状況が全く読めないという不安はありましたが、今年度は感染症防止対策を徹底したうえで、予定している様々な活動や取組を実施し、人権学習の推進を図っていくことを申し合わせました。

しかし、8月に入った頃、第7波がやってきました。今年こそは合同研修視察に行こうと準備を進めていましたが、感染状況を鑑みて、やむなく直前で中止を決定しました。その後、第8波がやってきましたが、その他の活動はおおむね予定通り実施することができ、何とか乗り切ることができました。



令和4年度 人権学習推進委員会 役員・部員・委員 (敬称略)

真備中学校区

役員	(会長)土屋 瞳、(副会長)三宅 健次・小山 治子、(監査)石橋 素子・岸本 弘
啓発・広報部会	(部長)河野 一江、(副部長)神崎 均、高槻 素文、中尾 研一、野田 俊明、岡田 春枝
研修部会	(部長)守屋 俊憲、(副部長)蛭田 純司、水川 誠、福長 輝、妹尾 鈴子、高槻 美枝
委員	藤田 ヒロエ、妹尾 夕美子、三宅 典子、西 愛、今井 由香梨、小林 英樹、守屋 直樹 飯田 昌代、岡 淳子、水川 市郎、川井 久美子、多田 伸志、松田 文恵、守屋 喜章 酒賀 範子、松永 喜樹、原 正男、江口 知栄子、武政 和茂、福田 知子、三村 美紀 梶谷 淳子

事務局員



山田 洋一	真備陵南高等学校	本多 卓郎	事務局長・館長
丹生谷 一代	倉敷まきび支援学校	岡田 直利	社会教育指導員
大塚 知洋	真備中学校	田中 克徳	玉島公民館・啓発指導員
柴田 友子	二万小学校	萩原 節子	指導員・庶務
西 善久	箭田小学校	河上 順子	指導員
小河 由香	呉妹小学校	坂本 秀子	指導員

第1回 人権教育講演会 R4.10.1

福島に想いを寄せて ～原発事故が奪った私たちの暮らし～

津軽三味線奏者 えびな うま 蝦名 宇摩 先生



原発事故で汚染された目に見えない恐怖、子どもたちへの影響、安心して過ごせる社会と環境の大切さを語られました。後半は力強かつ繊細な三味線や尺八の演奏と唄を披露してくださいました。

【参加者感想】

・災害はその時だけではなく、ずっと影響し続けるものであることを再確認しました。そして、生活の質にまで大きく影響するため、広い視野での支援が必要であると改めて思いました。実際に体験、活動されている方から直接お話を伺うことで、報道とは違った理解の深まりがあるように感じました。

・福島の人たちが今なお不自由な生活をされていることに改めて思いをはせることができました。その人たちの支援をされている蝦名さん、小さな身体のどこからそんなアイデアやパワーがわいてくるのだろうかと思うほどすてきな人でした。今日の出会いを大切にしたいと思いました。



第2回人権教育講演会 R5.1.14

心豊かに・・・ ～パンフルートと歌で～

パンフルート製作・演奏家 いまい つとむ 今井 勉 先生



パンフルートの美しい音色と力強い歌声にのせて、ユーモアを交えながら東日本大震災の被災者訪問や自身の経験、亡き母との関わりから、心のつながりや人としての生き方、家族の大切さ等について語られました。心が豊かになる講演でした。

【参加者感想】

・軽妙な語りと、パンフルートの美しい音色、力強い歌声に時間もあっという間に過ぎました。人生いろいろなことがあります、前向きに明るい方向に物事を考え、音楽とか好きなものと共に少しずつでも歩いていくことが大切かなと思いました。

・真備で被災してから、自分の生きる価値が何だったのか、空っぽになった時期もありましたが、今井さんの生き方も人生を途中で修正して歩まれた事に共感できました。今は、自分のためにみんなの幸せのために心も身体も大切に生きようと思います。



ふれあいと交流のまちづくり

呉妹幼稚園

餅つき会 (つなぐれ つなぐれ 人の輪)

11月16日(水)長寿会・幼稚園保護者・卒業生の保護者とともに
行いました。この餅つき会は

- 1 地域の人との交流を通して絆を深めること
- 2 子どもたちにとって「故郷のあの園庭で友達や地域の人と餅つきを
楽しんだよな」という思い出
- 3 日本古来の伝統行事に親しみ継承していく

この3つを目的として取り組みました。杵でついたお餅は、格別におい
しかったことはもちろんのことですが、準備を進めるにあたって、人との
つながりが大切なことをたくさん学びました。また、何より人の気持ち
の温かさを感じることができ、保護者も子どもたちが地域の様々な方
々に支えられ育てられていることを感じた一日でした。

つなぐれ つなぐれ 人の輪。楽しいことを一緒にすることは、人の痛
みも共有できる。



呉妹小学校 PTA 人権教育講演会

めざす「縦の力」、つながる「横の力」 こたに しょうご 小谷 彰吾先生

令和4年6月11日(土)「命はどこからか。10代遡ると1000
人超・・・みんなが生まれてきたのは奇跡の連続」という言葉で始ま
った講演会。命の大切さをわかりやすく伝えながら、生きる過程で大切な
ことについてお話をしてくださいました。

「よいことは何かを知り、よいことを愛し、よいことを実行する」と
いう言葉には毎日の生活の中で、基本的なことこそ大切にしないといけ
ないという小谷先生の強い思いが込められていて、子どもたちにもしっ
かりと伝わったようです。



倉敷市人権問題講演会 「転んだら、どう起きる？」

俳優 うかじ たかし 宇梶 剛士 氏

令和5年1月29日(日)俳優の宇梶 剛士氏を講師に招き、倉敷市人権問題講演会が開催されました。
アイヌ民族出身の母をもつ宇梶氏。挫折した高校時代、その後、暴走族の総長になり、少年院に収監され、
そこで出会ったチャップリンの本をきっかけに立ち直り、役者を目指すようになります。役者修行時代の
苦労や様々な人との出会い等についての経験をもとに、深く味わいのあるお話を聴くことができました。

合同研修会

令和5年2月5日(日)

2年ぶりに合同研修会を開催することができました。5人の児童・生徒による人権作文の発表では、各自がそれぞれの視点で人権を受け止め、自分の思いや考えをしっかりと伝えることができました。発表に続き、人権啓発用DVD「夕焼け」を視聴し、「ヤングケアラー」について研修を深めました。

【参加者感想】

- ・5名の発表を聞き、心が熱くなりました。5名の純粋な気持ちが真備町中、日本中、いや世界中に響き、平和で一人ひとりが大切にされることを切に願っています。
- ・作文発表は、それぞれがよりよく生きようと前向きに学んでいる姿に感心しました。私たち大人ももっと人権感覚を磨かなければと強く感じました。
- ・DVD「夕焼け」は、現在の問題を様々に描いていて、考えさせられました。人それぞれ表に出てこない悩みは抱えていますが、身近につながる人が一人でもいれば道が開けていくのだと思います。こんな時代だからこそ、「つながる」って大切ですね。

人権作文発表者

真備陵南高等学校	3年	小上 結菜	「私の人生」
箭田小学校	6年	守屋 菜々穂	「SNSでも人権を大切に」
岡田小学校	6年	堀口 鈴	「見た目より中身が大事」
真備中学校	2年	田中 愛由実	「ウクライナ侵攻」
真備東中学校	2年	上田 紗椰	「『尊敬』『感謝』」



「ウクライナ侵攻」

真備中学校 二年 田中 愛由実

「じゃん、けん、ぽん。」急に始めたじゃんけんは私がグーを出して一人勝ちをしました。いつかのテレビ番組で言っていた「ピースは平和の意味もつため、人はじゃんけんでピースを出す確率が高い」という言葉を思い出しました。平和に暮らせている私たちも心のどこかで平和を意識しているのでしょうか。何気ないじゃんけんから私は「平和」を意識するようになりました。

二〇二三年二月二十四日に始まったロシアのウクライナ侵攻。ウクライナ側は、戦争だと非難しています。しかし、ロシア側は、ウクライナ軍の攻撃から守り、欧米の脅威に対抗する「正当防衛」と主張しています。また、ロシア軍は、初め、ウクライナの軍事施設を攻撃すると言っていましたが、民間人への無差別攻撃が続いています。この戦争が始まってから、私は一ヶ月ぐらいで終わるだろうと思っていました。しかし、一年近くになる今でもこの戦争は続いています。

ロシア軍の攻撃が激しくなり、ウクライナへ向けての核の使用の可能性が高まっている中、私は去年五月に広島へ平和研修に行きました。平和資料館では、原子爆弾によって負った火傷や、原爆病を発症してしまった女の子の話など、たくさんの悲惨な事実を学びました。この研修を通して戦争は起こしてはな

らないと強く思いました。そして、今起こっているウクライナ侵攻についてもっと耳をかたむけるようにと思いました。ですが、今起こっている戦争を調べる・知るだけではいけないのです。そう、間接的に関わり、この戦争を伝えなくてはならないのです。そんな中、今私たちができることを二つ考えました。

一つ目は、侵攻を受けているウクライナへの募金です。私は町中で、時々「ウクライナへの募金をお願いします。」ウクライナの子どもたちと一緒に助けませんか。」と呼びかけをしている人を見かけます。みなさん、この募金に関わったことはありませんか。残念ながら、私は関わったことがありません。しかし、次、もし見かけたら十円からでも参加してみようと思います。そして、みなさんぜひ参加してみてください。

二つ目は、伝えることです。SNSや新聞を作るなど、どんな方法でも伝えてみてください。私は原爆についての新聞を学校で作りました。作ってみると、改めて原爆について知ることができ、自分の気持ちを表すことができました。

今こそ、核を受けたただ一つの国の国民である私たちがより伝える必要があるのではないのでしょうか。私は、これからはもっとこの戦争に心を寄せて、関わる・伝えるを通して平和への思いを形にしていこうと思います。みなさんも、同じ時代を生きる人々に心を寄せて、平和な日々が一日も早く実現されるよう、少しでも関わり伝えていきませんか。

倉敷まきび支援学校 奉仕活動

7月、10月、12月、2月の計4回、倉敷まきび支援学校高等部の生徒の皆さんが、真備公民館へ清掃活動に来てくれました。

今年が初めての生徒から、3年目を数える生徒もいます。さすがに経験のある生徒は、手際よく作業をこなしていきます。窓ふきと床磨きが中心ですが、約2時間の作業をどの生徒も一生懸命に丁寧に取り組んでいます。かなり年季の入った公民館ですが、清掃を終えた後は、館内が明るくなった感じがします。きっと、礼儀正しく、心を込めて活動している生徒の姿がそのように感じさせているのではないかと思います。生徒の皆さん、ありがとうございました。



倉敷市まびの道とのふれあい交流会



令和5年1月18日（水）倉敷市まびの道とのふれあい交流会を3年ぶりに開くことができました。参加者は少なめではありましたが、初めて中に入ったという人もいました。企業から請け負った作業（キャンドルや自動車部品）の様子を見ることもできました。見学後は参加者全員で、フラワーアレンジメントを作りました。酒賀所長さんが一つひとつ丁寧に説明していただき、皆思い思いのフラワーアレンジメントを仕上げることができました。まだまだ感染状況が落ち着かない状況だったため、交流活動の時間をあまり取ることはできませんでしたが、所内の見学や自作のフラワーアレンジメントを土産に持って帰ることができ、とても有意義なひとときを過ごせました。



人権ポスター・人権標語

12月3日～11日

展示：真備公民館1階ロビー



二万小 1年 赤木 悠隼



二万小 5年 浅野 隼都



箭田小 1年 山本 珀翔



箭田小 6年 守屋 香穂



呉妹小 1年 三宅 彩優



呉妹小 4年 増成 美歩乃



真備中 1年 清水 柚稀



真備中 2年 長尾 みなみ



真備中 3年 阿部 さくら

倉敷市人権ポスター
優秀賞



真備中 1年 小島 彩椰



箭田小 3年 小林 姫愛乃

二万小学校

4年 濱野 志保

ありがとう その一言が うれしいな

6年 瀬尾 帆南

見ためも性格も人それぞれ 性別だけが全てじゃない

箭田小学校

5年 守屋 佑太

広げよう みんな仲良く 人の輪を!

6年 高見 芽衣

楽しくて 笑顔がいっぱい 平和な世界

呉妹小学校

5年 滝本 健太

自分から ありがとう言う 愛言葉

6年 長谷川 充

あなたもね みんな大事な 仲間だよ

真備中学校

1年 徳田 恵美

「大丈夫？」 その一言が 宝物

2年 田中 愛由実

打ち明ける 心のくさりが とれてくよ

3年 徳田 仁

行動は 自分自身の 選択肢